

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

第2部 病院会計制度概論

第11章 キャッシュ・フロー計算書の作成

11-2-2 キャッシュ・フロー計算書の作成(承前)

(1) 単純に残高を振り替える項目

今回の設例では医業未収金・医薬品・貸倒引当金・買掛金の増加額は、その金額をそのままキャッシュ・フロー計算書へ振り替えることが可能である。換言すれば、キャッシュ・フロー計算書において、上記の項目は、1年間の取引の結果、その増減のみを表示することを求めているともいえる。よって、これらの項目は、そのままキャッシュ・フロー計算書へ振り替える仕訳を修正記入欄でおこなう。

※設例の数値情報については、前号掲載の図表11-4を参照ください。

Table with 4 columns: (借) 医業債権の増加額*, (貸) 医業未収入金, (借) たな卸資産の増加額*, (貸) 医薬品, (借) 貸倒引当金, (貸) 貸倒引当金増加額*, (借) 買掛金, (貸) 仕入債務の増加額*

上記の仕訳における*は、キャッシュ・フロー計算書の項目であることを意味している。つまり、貸借対照表の増減をキャッシュ・フロー計算書に振り替えていることがわかる。振り替えた結果、一番右の残高の列において、貸借対照表の増減の残高は0になっていることが確認できる。

(2) 利益の振替え

純資産額の増減の結果は、1年間の経営成績である損益計算書の税引前当期純利益1,100をあげた結果の増減である。間接法では、この税引前当期純利益から計算を始める。よって、純資産額の増減を税引前当期純利益に振り替える。

Table with 4 columns: (借) 純資産, (貸) 税引前当期純利益*, (借) 純資産, (貸) 税引前当期純利益*

<続く>

(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

全世代型社会保障
こども未来戦略

高齢化などにより、社会保障費が高騰を続けている中、少子化対策も深刻な問題となっています。そこで、厚生労働省が、全世代型社会保障を目指す改革の道筋の中で、「こども未来戦略」(案)について公表しました。

[背景] (抜粋)

- ・少子高齢化、人口減少は我が国が直面する最大の危機
・少子化対策により、個人と社会全体の幸福を実現
・少子化対策と全世代型社会保障と経済対策をパッケージで取り組む

・全世代で支え、全世代を支える

・経済基盤を強化し、国民の負担を軽減

[概要] こども・子育て支援加速化プラン (抜粋)

- 1. 児童手当の拡充
2. 妊娠・出産時からの支援強化
3. 出産費用の軽減
4. 高等教育
5. 切れ目なくすべての子育て世帯を支援
6. 育休を取りやすい職場に

児童手当の拡充
所得制限を撤廃
高校生年代まで延長
第3子以降は3万円

高等教育(大学等)
高等教育の負担軽減を拡大
世帯収入約600万円までの多子世帯等に拡充

妊娠・出産時からの支援強化
出産・子育て応援交付金
伴走型相談支援

出産費用の軽減
STEP1 出産育児一時金の引き上げ
STEP2 出産費用の保険適用

(出典: 第32回社会保障審議会 令和6年1月26日 資料1(厚生労働省))